

# 2022 年度事業計画

2022 年 3 月 28 日  
学校法人 金城学院

# 目 次

I	2022年度事業計画の策定にあたって	2
II	金城学院大学	10
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進	
	■学生支援の推進	
	■学生の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■研究成果の社会への還元	
	■生涯学習	
	■産学官連携、地域連携	
III	金城学院高等学校及び金城学院中学校	15
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義による全人教育の推進	
	■生徒支援の推進	
	■生徒の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■産学官連携、地域連携	
IV	金城学院幼稚園	20
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義に基づく全人教育の推進	
	■園児支援の推進	
	■園児の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■産学官連携、地域連携	
V	法人部門	25
1	環境整備	
	■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備	
2	健全経営の維持	
	■財政基盤の強化	
	■ガバナンス	
	■ブランド力向上	
VI	予算概要	27
1	予算編成方針	
2	主な事業別予算	

## I 2022 年度事業計画の策定にあたって

金城学院は、1889 年（明治 22 年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言 1：7）」をスクールモットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「社会に参画し、主体的に生きる女性の育成」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

創立以来 132 年の長きに亘って積み上げられた伝統は、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、創立 130 周年以降の本学院の中・長期的な計画については、5 年のスパンで企画・立案することとし、創立 140 周年に向けての第一段階として、「金城学院中期計画（2020 年度～2024 年度）」（次頁参照）を策定した。中期計画は、常に学院全体の組織・機構についての客観的な評価を実施し、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来をしっかりと展望しつつ、教育・研究における質的向上の不断の努力を今後も続けていくための指針でもある。

そして、この中期計画を実現させるために、5 年計画の 3 年目となる 2022 年度に取り組むべき具体的な課題を、事業計画として取り上げている。

少子高齢化の進行、学校間競争の激化等、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきているが、金城学院は、そうした様々な社会の変化と、その要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、大学・高等学校・中学校・幼稚園に至る各学校及び法人において、様々な教育制度の改革や、経営の改革を積極的に推し進めていく所存である。

## 《資料》金城学院中期計画（2020年度～2024年度）

### 1 教育研究の推進と学習支援

#### 大学アクションプラン

##### ■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進

###### 1 キリスト教主義に基づく全人教育

- ① 礼拝出席の奨励
- ② 学生の企画・参加型礼拝の実施
- ③ 近隣教会への出席の奨励
- ④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備
- ⑤ 教職員に対する修養会及び学生向バイブル・キャンプの充実

###### 2 自ら課題を発見し、解決できる教育

- ① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進
- ② リーダーシップ教育の推進
- ③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進

###### 3 国際理解の教育

- ① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加
- ② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善
- ③ 金城コア科目における英語及び外国語科目の整備
- ④ 学内環境における多言語化の推進

###### 4 研究の推進

- ① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励
- ② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進
- ③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究

##### ■学生支援の推進

###### 1 教学面での支援

- ① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築
- ② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立
- ③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善

###### 2 生活面での支援

- ① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実
- ② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備
- ③ 学生のマナー向上の推進
- ④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実

## ■学生の受入の推進

### 1 質の高い学生の確保

- ① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備
- ② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立
- ③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討

### 2 高大連携、接続

- ① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充
- ② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性をふまえた高大接続の強化

## ■教学マネジメント体制の推進

- ① 全学的な内部質保証体制の整備と運用
- ② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施
- ③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立
- ④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善
- ⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化
- ⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上
- ⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立
- ⑧ 定期的な授業評価の実施とVOX POPの作成・公表による教育力の向上

## 中学校・高等学校アクションプラン

### ■キリスト教主義による全人教育の推進

- ① 生徒の企画・参加型礼拝の実施
- ② 近隣教会への出席の奨励
- ③ キリスト教教育実施体制の再構築
- ④ 幼中高教師修養会の充実
- ⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励
- ⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し
- ⑦ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応

### ■生徒支援の推進

#### 1 教科教育の研究・充実

- ① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す授業改善の推進
- ② 高等学校新学習指導要領の新教科「理数探究」「論理表現」の研究開発
- ③ 6年一貫カリキュラムの推進
- ④ “Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」の育成
- ⑤ 英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究の充実

- ⑥ 中高大共同研究の推進。中高“Dignity”ルーブリックと大学「ディプロマ・ポリシー(DP)ルーブリック」に連続性を持たせ、大学卒業後に社会で活躍するための汎用的能力を身につけさせる。
- ⑦ 2020年度に中学1年から高校1年にタブレットを導入する。これによって生徒の探究活動、ポートフォリオ作成、家庭学習の充実を図る。
- ⑧ 観点別評価の研究

## 2 カリキュラムマネジメントの推進

### 3 中高連携した進路指導体制の整備・充実

- ① 生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するため、新しい時代に相応しいキャリア教育の推進
- ② 入試の多様化について情報収集し、対応方法等を検討
- ③ 調査書及び指導要録の様式の改定

#### ■生徒の受入の推進

- ① 入試研究部における中学入試改善の研究
- ② 英語利用入試の内容検討
- ③ 思考力を測定する入試の研究
- ④ 金城サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証
- ⑤ 企画広報室を中心に広報活動の充実

#### ■教学マネジメント体制の推進

##### 1 カリキュラム研究部における探究力育成の研究

- ① 教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援
- ② 「科学的思考」「表現」「協働」の3つの力が、教育プログラムによって発展・育成されたか効果測定を行なうための教科ルーブリックの作成
- ③ 教育課程表の形式の改善
- ④ 21世紀型学力の研究開発
- ⑤ アドミッション、カリキュラム及びディプロマの各ポリシーの作成
- ⑥ 生徒の多様な学習成果や活動の評価方法の研究・開発

##### 2 探究学習や観点別評価に対応するための教師研修会の実施

## 幼稚園アクションプラン

### ■キリスト教主義に基づく全人教育の推進

#### 1 キリスト教主義に基づく全人教育

- ① 教育スローガン「愛され、育ちあう。」の実践
- ② キリスト教幼児教育に基づく教育課程の実践と検証
- ③ 礼拝を通し「聖話、聖句、讃美、主の祈り」等を幼児の心に刻み、神の愛を身近に感じながら自己に与えられた力を活かしつつ、他者と共に生きる感謝と喜びを知っていく。
- ④ 園児の教会出席の推奨

#### 2 自ら課題を発見し、解決できる教育

- ① 主体的な活動を重視した教育の実践
- ② 異年齢クラス編成による教育の充実
- ③ 主体的活動と連動させた年齢別活動やクラス活動の充実
- ④ カリキュラムの検討、行事の見直しや改善
- ⑤ 魅力ある園庭作りと整備

#### 3 国際理解の教育

- ① 「英語であそぼう」の教育活動や大学留学生との交流等を通し、言語、文化、考え方の違い等に気付き多様性を学ぶきっかけとする。
- ② クリスマス献金やバザーによる支援金等を通し、国内外の状況を知り、自分達にできることを考える機会とする。

### ■園児支援の推進

#### 1 教学面での支援

- ① 主体的な遊びを促すための、環境設定や素材の充実
- ② 個別支援記録の活用と改善
- ③ 保護者と教員との連携強化
- ④ 小学校や療育機関との連携

#### 2 生活面での支援

- ① 基本的な生活習慣確立のための環境設定の検証と改善
- ② 保護者との定期個人懇談会、日常の情報交換の強化

### ■園児の受入の推進

#### 1 園児の確保

- ① 幼稚園説明会、幼稚園体験会の充実
- ② 未就園児の幼稚園見学、園庭開放の拡大と充実
- ③ 2歳児プレ幼稚園の充実

- ④ ホームページの充実
- ⑤ KIDS センターとの連携強化

#### ■教学マネジメント体制の推進

##### 1 教育体制

- ① チーム保育の充実
- ② 支援児担当教員の配置及び連携
- ③ 療育機関との連携
- ④ 2022 年度幼稚園設立 50 周年を機に教育体制の見直しと強化
- ⑤ 大学各学科の学生・教員との連携

##### 2 教育力向上

- ① 研究会参加
- ② 公開保育、園内外研修への積極的参加による質の高い保育強化



## 2 地域社会との共生

### 大学アクションプラン

#### ■研究成果の社会への還元

- ① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信の一層の促進
- ② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元

#### ■生涯学習

- ① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践
- ② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築

#### ■産学官連携、地域連携

- ① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進
- ② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進

### 中学校・高等学校アクションプラン

#### ■産学官連携、地域連携

- ① キャンパスの地域への開放
- ② 地域奉仕活動への参画

### 幼稚園アクションプラン

#### ■産学官連携、地域連携

- ① 大学との連携強化
- ② 発達支援児やアレルギーを持つ子どものための療育機関や病院との連携
- ③ 地域の方へ行事参加案内、花の日やクリスマスを通し感謝を表す計画

### 3 環境整備

#### 法人アクションプラン

##### ■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備

- ① KMP21 大学第 3 フェーズ実施に伴う E1 棟竣工及び周辺外構整備
- ② E3、E4、E5、W5 号館解体に伴う跡地の有効な計画の策定と実施
- ③ 新学部開設に伴う学習環境整備

### 4 健全経営の維持

#### 法人アクションプラン

##### ■財政基盤の強化

- ① 合理化・効率化による収益性向上
- ② 安定的な資産運用・活用
- ③ 財源多様化による収入基盤の強化

##### ■ガバナンス

- ① 理事会・評議員会・監事機能の強化
- ② 情報公開の推進

##### ■ブランド力向上

- ① 戦略的広報活動の推進
- ② 卒業生との繋がりの強化

数次に及ぶ COVID-19 の感染拡大の波は、本学の運営にも大きな影響を与えた。そうした困難のなかにあっても、本学では、その教育研究活動を円滑に行なうための不断の努力を積み重ねてきた。

本学は、引き続き「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、多様化する社会で主体的に生きる強さと思いやりの心を兼ね備えた品格ある女性の育成を目指すものである。具体的には学院中期計画（2020 年度～2024 年度）に基づき、福音主義キリスト教による全人教育の強化を始めとした教育・研究の推進と学生支援を行ない、また、同時に教育・研究の成果を社会に還元するための地域社会との共生にかかる事業を展開すべく、各項目にアクションプランを設定した。このアクションプランに基づいて、本学の内部質保証推進会議または教育課程編成会議が指定した関係部門を中心に年次計画を以下のように策定した。

### 1 教育研究の推進と学習支援

#### ■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進

##### 1 キリスト教主義に基づく全人教育

###### ① 礼拝出席の奨励

2022 年度は礼拝をアニー・ランドルフ記念講堂からエラ・ヒューストン記念礼拝堂に戻し、感染症対策を取りつつ厳粛な礼拝や自由なスピリットの礼拝等様々な形の礼拝を学生・教職員に提供する。また、メール配信や manaba のニュース機能等を用い積極的な出席を呼びかける。

###### ② 学生の企画・参加型礼拝の実施

学生との交わりは KCF（金城クリスチャン・フェローシップ）や KBS（金城バイブルスタディー）を通して充実していく。COVID-19 感染予防の制約からあまり実施できなかった教員との交流の機会を増やし、意見交換する。

###### ③ 近隣教会への出席の奨励

『金城台』と月毎の Web 配信をさらに充実させる。大学広報と協力し学内外に発信しキリスト教センターの働きを周知する。また、近隣教会の紹介をさらに進める。

###### ④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備

教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

###### ⑤ 教職員に対する修養会及び学生向バイブル・キャンプの充実

2020 及び 2021 年と 2 年続けて中止となった教員キリスト教セミナーと軽井沢バイブル・キャンプを実施する。事前の宣伝、奨励を教授会以外にも機会があるごとに実施する。

## 2 自ら課題を発見し、解決できる教育

### ① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進

教育課程編成会議が、大学教務委員会及びマルチメディアセンター等教学関係センターに対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

### ② リーダーシップ教育の推進

教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

### ③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進

ラーニング・コモンズでの AV 機器の利用率の調査・アンケートにより AV 機器の更新計画を作成する。図書館の利用状況に関し、来館を伴うサービス、来館を伴わないサービスそれぞれについて情報を収集・整理し、COVID-19 の感染拡大下で必要な整備を実施する。

## 3 国際理解の教育

### ① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加

継続して、複数の大学と協定締結に向けた折衝を進める。新たな協定大学との関係を築き、また、従来の協定大学との関係を維持するために、安全かつ充実した受け入れ・送り出し留学再開の準備をし、適切に遂行する。

### ② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善

### ③ 金城コア科目における英語及び外国語科目の整備

②～③については、教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

### ④ 学内環境における多言語化の推進

国際交流センターの協力を得つつ、留学生にわかり易い表示を中心とした学内環境整備の実施計画案を作成する。

## 4 研究の推進

### ① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励

競争的外部資金における申請・分担参加の促進に主体的に責任を持つ研究支援事務体制について検討する。

### ② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進

制度利用の促進に主体的に責任を持つ研究支援事務体制について検討する。

### ③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究

地域社会の実態にあった支援プログラムのあり方についての検討を継続し、多様な方法で提供可能なプログラムの開発と実施をめざす。

## ■学生支援の推進

### 1 教学面での支援

#### ① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築

教育課程編成会議が、大学教務委員会及びマルチメディアセンターに対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

#### ② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立

#### ③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善

②～③については、教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

### 2 生活面での支援

#### ① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実

2022年度から開始する新しいキャリア支援体制を周知しつつ、4月・5月には土曜日の面談を実施するとともに、年間を通してキャリアカウンセラーを増員することで、面談を受ける学生実人数及び延べ回数の増加をはかる。

#### ② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備

2020年度以降の状況をふまえ、継続の困難な活動に対して、個別の相談・支援を展開する。

#### ③ 学生のマナー向上の推進

感染症の広がりや対策に沿った新しい注意喚起・助言・指導のあり方を定式化する。また、学生個人の情報発信については、情報リテラシーのオンラインマニュアルのブラッシュアップ・ポスター・リーフレット等の作成で学内への周知を図る。

#### ④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実

2021年度前期からの送り出し留学の再開にあたり、適切な経済的支援（奨学金）を実施する。

## ■学生の受入の推進

### 1 質の高い学生の確保

#### ① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備

2021年度の入試改革をもって本アクションプランについては概ね完了したが、引き続き検討を行っていく。

#### ② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立

入試種別ごとに課している選抜方法と「学力の3要素」の評価の結びつきに関する資料を学科ごとに作成する。

#### ③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討

新学習指導要領に基づく入学者選抜方法の検討を2021年度に引き続き行ない、2023年3月までにその詳細を公表する。

## 2 高大連携、接続

- ① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充  
中高大教育協議会が中心となって連携事業の強化をはかる事により、中高大の相互理解を深める。特に、これまで連携事業が手薄だった中大連携を検討する。
- ② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性をふまえた高大接続の強化  
2022年度においても中高“Dignity”に対して各学科より提示している研究テーマを確認し、更新する。2022年度金城学院高等学校高大接続型推薦入試の面接実施状況のヒアリングで明らかとなった大学側から出た課題を高校と共有し、改善に向けて検討を行なう。

### ■教学マネジメント体制の推進

- ① 全学的な内部質保証体制の整備と運用  
大学基準協会の評価と指摘をふまえ、各部門に対して改善・向上の指示ができるよう課題を整理し、これを全学的に共有する。また、第3期認証評価の受審内容をふまえた内部質保証に関する情報の理解・共有を図るために、オンラインを含めた多様な方法によるFD・SD交流集会を開催する。
- ② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施
- ③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立
- ④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善
- ⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化
- ⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上  
②～⑥については、教育課程編成会議が、大学教務委員会やIR室等に対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。
- ⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立  
2020年度の教育に関する学科別協議会において検討した方針をふまえ、各学科で、「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を運用する。
- ⑧ 定期的な授業評価の実施とVOX POPの作成・公表による教育力の向上  
教育課程編成会議が、大学FD委員会に対し、前年度の活動成果をふまえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

## 2 地域社会との共生

### ■研究成果の社会への還元

- ① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信の一層の促進  
リポジトリの管理運営を適正に実施する上で、新システム移行後の管理運営の実態を改めて検討し、管理運営上の問題点の把握に努める。

- ② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元

心理臨床相談室では、COVID-19 の感染拡大期には、ひきつづき電話相談、web 相談を活用して相談ニーズに対応し、地域社会に貢献する。相談員による事例研究を関係機関交流会及び各種研究会にて検討し、リカレント教育を充実する。これにより力量のある心理職の育成を通して、地域社会に貢献する。KIDS センターでは、2021 年度までの実績をふまえ、子育て支援活動を通して、地域社会への研究成果の還元と支援を推進する。また、地域の子育て世帯に対する支援の充実と広く地域社会のニーズに応えるセンターとしての機能を拡充させるために、情報収集・試行・評価を行なう。女性みらい研究センターでは、地域社会に還元しうるリソースについて、調査のデータをもとに、体制の構築を検討する。

#### ■生涯学習

- ① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践  
今日の生涯学習に関するニーズを把握し、これに基づいた体制を整備しつつ、生涯学習のためのプログラムを実際に企画・運営する。
- ② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築  
金城学院アプリや大学公式 Instagram 等を用いて卒業生との密な関係構築に資する情報発信を継続的に行なう。

#### ■産学官連携、地域連携

- ① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進  
基本方針を実現性あるものとするため、地域連携の推進に主体的に責任を持つ体制について検討する。
- ② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進  
守山区との連携活動の推進に主体的に責任を持つ体制について検討する。

### Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

中高スクールポリシーにおける「育成を目指す資質・能力に関する方針」に、卒業時に生徒が身につけるべき4つの資質・能力を提示した。「1 高等教育機関での学びへ円滑に適應するために必要な基礎知識を習得している。2 教科学習及び特別教育活動へ主体的に参加することができる。3 知識を活用して科学的に思考し、表現し、協働することができる。4 将来の自分や社会に対して希望を描き、行動することができる。」の4項目である。

これらの資質・能力を育成するために、カリキュラムマネジメントを確実に実施していく。特色ある教育活動を生み出すカリキュラムのPDCAを実行するとともに、教育活動と相互に影響し合う学校運営の改善にも努力する。カリキュラムマネジメントを実行することで、4つの資質・能力を身につけた主体的に社会に参画する人材を育てるのみならず、教員の働き方改革を実現する。

また、中高6学年生徒の「一人一台タブレット端末所持」が整う年度であり、ICTを駆使した教育活動に一層力を入れていく。

#### 1 教育研究の推進と学習支援

##### ■キリスト教主義による全人教育の推進

###### ① 生徒の企画・参加型礼拝の実施

伝道週間や特別礼拝等を、宗教常任委員会、宗教委員会を中心に、生徒によって企画を立てて行ない、生徒の参加をさらに促していく。特に、春秋にもたれる伝道週間では、引き続き生徒のアイデアを盛り込んでいく。

###### ② 近隣教会への出席の奨励

教会出席奨励日があるが、1年を通して、担任や授業担当者（聖書科を中心に）の協力を得て、引き続き教会への出席を促す。

###### ③ キリスト教教育実施体制の再構築

これまでの中高の一貫教育としてのキリスト教教育の意義を確認し、「礼拝、行事、聖書科授業」の関連性をさらに深める。特に、中学入学時の金城オリエンテーション、中2修養会、中3卒業礼拝、高校の高3卒業修養会、高3卒業礼拝等の宗教行事を見直し、中高での連続性を再構築する。

###### ④ 幼中高教師修養会の充実

本校の教育の礎であるキリスト教について学ぶ機会として、幼中高教師修養会をさらに充実させる。

###### ⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励

キリスト教学校教育同盟の研修会への参加を促す。さらに、それぞれの年代からの代表が参加していけるようにする。

###### ⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し

キリスト教教育全般をつかさどる各校の宗教主事が、学院主事会の責任のもとでそれぞれの役割を担い、ますます中高大の連携を強化する。



⑦ 地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励

課外活動としてのボランティアの形を整え、他者に感謝して仕えることで社会に参加できる生徒を養い育てる取り組みを継続する。コロナ感染症予防のため、昨年度は生徒によるボランティア活動はできていないが、可能な形を模索しながら今年度は実施していく。

## ■生徒支援の推進

### 1 教科教育の研究・充実

① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す授業改善の推進

「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指すため、研究公開授業を実施し互いの授業の改善を一層進める。

② 教育目標等の達成に向けた指導の充実

高校では新学習指導要領に基づいた新しいカリキュラムが今年度の1年生より年次進行で展開される。1年次に新設されるいくつかの必修科目での学びにおいて、それぞれの科目でねらいとされる教育目標の達成に向けて指導の充実を図る。また、3年コースIでは学校設定科目として各種資格取得奨励を見据えたキャリアデザイン系の選択科目を新設する。社会で必要とされる実践的な技能、能力習得に向けた指導にも力を入れていく。

③ 高等学校新学習指導要領の新教科「理数探究」「論理表現」の研究開発

高校では昨年度までパイロット授業的な位置づけとして、希望者を対象とする「理数探究」「論理表現」のセミナーを実施してきた。新カリキュラムでの学習指導において、得られたノウハウ、指導実践の振り返りに基づく検証を活用していく。

④ 6年一貫カリキュラムの推進

6年一貫カリキュラムを、カリキュラム研究部を中心にさらに検討し推進する。

⑤ 全ての教科、教育活動における「言語技術」「課題研究力」の育成

“Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」を育成する。

⑥ 英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究の充実

⑦ 中高大共同研究の推進

中高“Dignity”ループリックと大学「ディプロマ・ポリシー（DP）ループリック」に連続性を持たせ、大学卒業後に社会で活躍するための汎用的能力を身につけさせる。

中高大教育連携のさらに推進するため、中高大共同研究「中学校から大学までの汎用的能力を育成する教育手法の開発」の成果を活用する。共同研究で作成した中高大コモングループリックをアカデミックライティング力の向上に役立てる。

⑧ ICT活用の高度化（GIGAスクール構想への対応）

今年度で中学1年から高校3年まで全学年生徒が一人一台のタブレットPCを所持する体制が整う。コロナ禍において、リモート授業での対応の拡充も求められる中、ICTを活用した個別適切な学びの実現に向けた授業展開に向けてさらに研究を推進し、積極的に取り入れていく。

### ⑨ 観点別評価の研究

学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況がどのようなものであるか、生徒の学習状況を観点ごとに分析的に捉えて評価し、そして評定に結び付けるために、効果的な観点別評価の在り方について研究する。

高校では 2023 年度の運用開始を目指して、今年度中に具体的な制度設計、プログラム構想を図っていく。

## 2 中高連携した進路指導体制の整備・充実

### ① 生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するため、新しい時代に相応しいキャリア教育の推進

進路指導が単なる知識・技能の習得度に基づく指導に留まることなく、多面的・総合的な評価に基づき、生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するあり方に転換する。

### ② 入試の多様化について情報収集し、対応方法等を検討

大学入試制度の変更や入試の多様化について、進路指導課として情報収集し、早めの準備やその対応方法等を提案する。

### ③ 調査書及び指導要録の様式の改定

調査書及び指導要録の様式等を、新たな中学校・高等学校の在り方をふまえ、生徒の多様な学習成果や活動が反映されたものになるように改定する。

## 3 キャリア教育の推進

中高 6 年一貫キャリア教育プログラムを整えるとともに、金城学院中学校・高等学校コアルーブリックを活用して、ポートフォリオやキャリアパスポートの指導を推進する。

## ■生徒の受入の推進

### ① 入試研究部における中学入試改善の研究

2021 年度入試から帰国子女を主な対象とする英語利用入試の実施をふまえ、これを改善し、さらに英語能力に秀でた生徒を選抜し入学を促す。この改善のために同入試によって入学した生徒の追跡調査を引き続き行ない検証する。

### ② 思考力を測定する入試の研究

既存の四科入試とは別に、思考力、判断力及び表現力を測定する思考力入試を 2022 年度に実施した。入試結果を分析し検討する。

### ③ 金城サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証

金城学院サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証する。

### ④ 企画広報室を中心に広報活動の充実

塾等の主催する入試研究会への参加、入試情報誌の閲覧、研究部内での勉強会の実施等を行なう。

## ■教学マネジメント体制の推進

特色ある教育活動を生み出すカリキュラムの PDCA を実行するとともに、教育活動と相互に影響し合う学校運営の改善にも努力する。

### 1 カリキュラムのPDCA サイクル

#### ① 教育活動コアルーブリックの活用

金城学院中学高等学校教育活動コアルーブリックを使って、生徒に自己評価させ、育成を目指す資質・能力に対する教育活動の効果測定を行なう。

#### ② 学びみらい PASS の PROG-H の利用

高 1 の 1 学期、高 2 の 3 学期に学びみらい PASS の PROG-H を受験させ、育成を目指す資質・能力に対する教育活動の効果測定を行なう。

#### ③ 教員対象の質問紙調査の実施

教員対象の質問紙調査を実施し、育成を目指す資質・能力に対する教育活動の実施状況を把握して、授業改善につなぐ。

#### ④ カリキュラムマップの作成

育成を目指す資質・能力が教科教育の単元や特別活動のどこでつけるように設計されているかを見える化するために、カリキュラムマップを作成する。

#### ⑤ カリキュラムマネジメントの推進

教育目標を達成するために編成・計画された全ての教育活動が有機的に結びつき、かつ効果的に実施されているかどうかを評価して、教育活動を改善していくためにカリキュラムマネジメント（教学マネジメント）を実施する。カリキュラムマネジメントを推進するにあたり、昨年度に引き続き高校版 IR パイロットスタディ校として、桐蔭学園理事長の溝上慎一氏のアドバイスを受ける。

### 2 学校運営の点検

組織の在り方や業務負担を点検する。

### 3 働き方改革の検討

カリキュラムマネジメントを実施することで、教員の働き方を改善する。

### 4 教師研修会の実施

#### ① カリキュラムマネジメントについて

カリキュラムマネジメントの意義を周知するために研修会を実施する。

#### ② 授業デザインと評価について

「主体的で対話的な深い学び」を実現する授業デザインと評価について理解を深めるために研修会を実施する。

#### ③ 問う力とリフレクション力について

教員の問う力とリフレクション力を高めるために研修会を実施する。

## 2 地域社会との共生

### ■産学官連携、地域連携

- ① キャンパスの地域への開放
  - ・東区主催「歩こう！文化のみち」等での施設・設備の開放と活用機会の提供
  - ・施設・設備の利用法の見直し
- ② 地域奉仕活動への参画
  - ・東区主催「歩こう！文化のみち」、東法人会主催「早咲き！桜みちまつり」への積極的参画と奉仕活動
  - ・社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動
  - ・病院・刑務所・福祉施設等への慰問
  - ・音楽系クラブによる演奏奉仕

## IV 金城学院幼稚園

2022年度本園は設立50周年を迎える。保育の質向上のため、園の具体的教育内容の振り返りやカリキュラム編成の検討は夏に予定している50周年記念研究会等を通し取り組みたい。

発達に関して多様な子ども達が増えている中、専門機関や療育施設との連携を深め教育体制も整えていく必要がある。また、長引く新型コロナウイルス感染拡大状況の中で2022年度入園の親子は乳児期の子育て期のほとんどをマスク着用、ステイホーム等の中で過ごしており親子共々社会経験が少ないことが予想される。新たな保護者支援の必要性と支援の在り方も問われている。

本園の教育方針を活かしつつ、今まで以上に孤立しがちな子育て世代のニーズに応え、キリストの愛の基、子ども・保護者・教員が互いに育ち合うことを目的として2022年度も引き続き教育スローガン「愛され、育ちあう。」を掲げ、より質の高い幼児教育に取り組み、キリスト教幼児教育推進のための教育事業を押し進めていく。

### 1 教育研究の推進と学習支援

#### ■キリスト教主義に基づく全人教育の推進

##### 1 キリスト教主義に基づく全人教育

###### ① 教育スローガン「愛され、育ちあう。」の実践

神に創造されたかけがえのない一人ひとりとして活かされている感謝と喜びを、遊びや生活を通し実感できる教育のため、本学院主題聖句及びキリスト教保育連盟2022年度聖句に基づきカリキュラムを組むものとする。

###### ② キリスト教幼児教育に基づく教育課程の実践と検証

教育課程に基づく年間指導計画・月案・週案・日案作成において、年間聖句とキリスト教保育の年間目標を意識化し、教育に当たる。また、毎月の評価と改善に努める。

###### ③ 礼拝を通し「聖話・聖句・讃美・主の祈り」等を幼児の心に刻み、神の愛を身近に感じながら、自己に与えられた力を活かしつつ、他者と共に生きる感謝と喜びを知っていく。

具体的には、毎月の聖句暗唱・讃美歌・聖話は、天地創造からキリストの降誕・イエスの生涯・十字架の贖罪・復活と昇天を、年間カリキュラムに組み入れ繰り返し伝える。

3学期には全園児で主の祈りを覚える。

###### ④ 園児の教会出席の推奨

教会出席のきっかけ作りとして、夏休み・春休み等に教員が交代で子どもたちと共に地域の教会へ出席をする。

##### 2 自ら課題を発見し、解決できる教育

###### ① 主体的な活動を重視した教育の実践

子どもが自ら身近な環境に興味を持って関わり、試行錯誤しながら意欲的に遊べる環境設定を日々行なう。同時に、園庭や園舎に関し長期的な研究と計画を立てる。

## ② 異年齢クラス編成による教育の充実

3・4・5歳児が受け入れ合うことを通し、発達段階に沿って自己発揮できるように促す。また、満3歳児に関して入園時期の違いを鑑み、個の発達を十分見極めたうえで適宜異年齢クラスでの活動に参加する機会を設け、3学期からはスムーズな進級をめざし異年齢クラスに加わり生活する。

## ③ 主体的活動と連動させた年齢別活動やクラス活動の充実

主体的活動における集団や個の姿を把握しつつそこで生み出された遊びに着眼し、年齢別活動やクラス活動に繋がりを持たせながら課題に取り組む。

## ④ カリキュラムの検討、行事の見直しや改善

学期ごとに教員間でカリキュラムの振り返り検討会を行ない、カリキュラムマネジメントの強化に努める。また、そのことにより各行事が慣習として行なわれるのではなく、子ども達の実態に沿ったものであるかの検討を行なっていく。

## ⑤ 魅力ある園庭作りと整備

安全点検や整備は勿論であるが、幼稚園設立50周年記念事業として保護者の協力も得ながら新しい遊具を設置し、あそび場としての園庭が子ども達の創造性や科学する目をより刺激する場となるよう、環境の再構築を行なう。

## 3 国際理解の教育

### ① 「英語であそぼう」の教育活動や大学留学生との交流等を通し、言語・文化・考え方の違い等に気付き多様性を学びきっかけとする。

自由活動・年齢別活動・クラス活動への英語活動の取り入れ方を検討し、全ての子が英語の環境に触れることを通し、自国・他国への言語や文化への興味関心を深めるようにする。

### ② クリスマス献金やバザーによる支援金等を通し、国内外の状況を知り、自分達にできることを考える機会とする。

年長児を中心に話し合いや情報を子どもなりに収集し、掲示や発表を通して世界に目を向け、国際平和や環境問題に関心を持つ。

## ■園児支援の推進

### 1 教学面での支援

#### ① 主体的な遊びを促すための、環境設定や素材の充実

子ども達の遊びの発展性を見取り、必要なコーナー・素材の設定を毎日行なう。また、廃材収集のため保護者に協力を得る。

#### ② 個別支援記録の活用と改善

発達障がい児について、月毎の振り返りを基に次月のねらいを立案、全教員での検討会を行なう。年長児の個別支援記録（リレーシート）を小学校への引継ぎと連携に活かす。

### ③ 保護者と教員との連携強化

登園時・降園時の情報交換に加え、現行の個人懇談会・クラス懇談会・園長とのおしゃべり会等を定期的に行ない、子どもの成長や課題・保護者自身の子育ての悩み等について話す機会とする。また、保育に参加できる「お手伝い父さん母さん」や園庭開放・休日の動植物の当番等、有志で参加できる機会を作り、保護者の子育て支援としての要望に応えていく。

### ④ 小学校や療育機関との連携

地域の小学校（大森小・大森北小・小幡小・小幡北小）との懇談会を定期的に行ない、就学児童や入園予定児に関する情報交換を行なう。療育機関とは個別支援児に関する相談や訪問を行なう。

## 2 生活面での支援

### ① 基本的な生活習慣確立のための環境設定の検証と改善

集団生活における身のまわりに関することの自立、そのための動線の検証、保護者の協力体制を強化する。

### ② 保護者との定期個人懇談会、日常の情報交換の強化

個々の課題や子育てに関する相談をもとに、保護者との信頼関係を深め、園と家庭でのその子の成長を支援する。また、特にコロナ禍の中で表出してきた不安に寄り添い保護者支援に努める。

## ■園児の受入の推進

### 1 園児の確保

#### ① 幼稚園説明会・幼稚園体験会の充実

プレ幼稚園やKIDSセンターとの連携により幼稚園を開放することで入園に繋がる取り組みを企画し行なう。また、2歳児親子プレ幼稚園事業を通し、確実な入園児獲得につなげ、広報活動の一端としたい。

対面での説明会が可能であれば6月から9月間に5回程度計画し、コロナ禍で行なったWeb説明会も合わせ、ホームページやドキュメンテーションを更新して視覚に訴える説明を重視していく。

#### ② 未就園児の幼稚園見学・園庭開放の拡大と充実

未就園児の会「こすずめの会」を年間20回程度開催予定。8月には「こすずめの会ボール遊び」として4日間行ない20組親子を募集予定。

#### ③ 2歳児プレ幼稚園の充実

5月～9月にかけて毎月3回程度行なう。内容は在園児との自由活動体験、親子集団遊び等を予定。

#### ④ ホームページの充実

各募集のアップ・入園への情報・子ども達の遊び等をこまめにアップすることで情報提供とPRを充実させる。

## ⑤ KIDS センターとの連携強化

入園予定者の8割がKIDSセンター利用者であることから日常的な交流、連携を深めていく。入園説明会に先駆け、4月下旬にKIDSセンターにおいて幼稚園で使用の安全なおやつ試食を兼ねた「幼稚園ってどんなところ」の講演を園長が行なう。また、「2歳児の親子ふれあい遊び」を本園満3歳児担当者が2回程度行なう。KIDSセンター開催「ようちえんへおさんぽに行こう」を、月2回程度受け入れていく。

その他、幼稚園においてKIDSセンタースタッフの研修や連携会議を行なう予定。

## ■教学マネジメント体制の推進

### 1 教育体制

#### ① チーム保育の充実

自由活動時に関わった子ども一人ひとりの姿や遊び、クラス活動や年齢別活動での様子等の記録を共有し話し合い、カリキュラムマネジメントに努める。

#### ② 支援児担当教員の配置及び連携

特別支援児補助金での支援教諭の配置、個別支援記録に基づく全スタッフ会議での定期的検証に努める。

#### ③ 療育機関との連携

大学心理臨床相談室・支援児が通う療育機関との情報交換や園内研修、また、訪問等を通し、連携を図る。

#### ④ 幼稚園設立50周年を機に教育体制の見直しと強化

本園の教育方針やカリキュラム編成等を振り返り、今後の教育体制について園内研修や研究会を通し確認や検討を行なう。

#### ⑤ 大学各学科の学生・教員との連携

現代子ども教育学科生・英語英米文化学科生・大学院生の実習とゼミ演習授業の受け入れ、自主実習生受け入れや留学生との交流を行なう。また、各学科の教員との交流を通し、学生や園児の教育活動につなげていく。

### 2 教育力向上

#### ① 研究会参加

保育学会・キリスト教保育連盟主催の研究会等に積極的参加の予定。

#### ② 公開保育・園内外研修への積極的参加による質の高い保育強化

夏期保育中に東京家政大学子ども学部子ども支援学科 山梨大学名誉教授・加藤繁美氏を招き50周年記念研究会を実施予定。

## 2 地域社会との共生

### ■産学官連携、地域連携

#### ① 大学との連携強化

大学各学科の学生受け入れと、大学教員との連携強化に努める。



② 発達支援児やアレルギーを持つ子どものための療育機関や病院との連携

各専門機関との連携により、園児への細やかな教育的配慮や危機管理体制の強化に努める。

③ 地域の方へ行事参加案内、花の日やクリスマスを通し感謝を表す計画

子ども達が案内を作成したり訪問をしたりすることにより、日頃の感謝を表す等近隣の方やお年寄りとのふれあいの機会を設ける。また、年長児が中心となって守山区社会福祉協議会主催の事業「だれでも参加できるじゃがいもプロジェクト」に参加し、自分達で育てた芋類を地域の子ども食堂や高齢者施設等に寄付する予定。

## V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行なう様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や、多様化するニーズに 대응することができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革の推進を、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画に基づく法人部門の2022年度事業計画としては、次の2点を掲げてその取り組みを進める。

### 1 環境整備

#### ■施設設備の維持管理及び改善計画の策定

KMP21が予定通り完了したことより、今後、さらなる教育・研究活動の資質向上に対応できるよう、下記を推進する。

- ① KMP21及び看護学部設置に於いて新設された校地校舎に対する、中長期修繕計画のブラッシュアップを行なう。
- ② 看護学部開設に伴う学生増に対応するため、学生動線等について検討する。

### 2 健全経営の維持

#### ■財政基盤の強化

下記を推進することにより、2024年には2019年度に対して1億円の収益増を目指す。

- ① 合理化・効率による収益性向上（2,000万円）  
コロナ禍の影響により、収入・支出構造が変化しており、改めて経費削減計画を検討し、早期に立案・実施する。
- ② 安定的な資産運用  
資産運用規程に基づく安全性の高い資産運用を行なう。
- ③ 財源多様化による収入基盤の強化  
コロナ禍での新たな価値体系に基づく収入基盤を検討する。

#### ■ガバナンス

- ① 理事会・評議員会・監事機能の強化  
私立大学のガバナンス改革議論の後、私学法が改正されようとしているが、その中で、評議員会の位置づけが大きく変わろうとしている。  
本学の事を理解し、共感・応援してくれる学外者を今から確保し、評議員になってもらうための関係作りを始める。
- ② 情報公開の推進  
情報公開すべき項目について検討し、公開する。

## ■ブランド力向上

日経 BP 調査東海版において、10 位以内を復活させるとともに、大学及び中学校の志願者数を 2021 年度に比べて 10%増加させる。

### ① 戦略的広報活動の推進

ブランド力を向上させるための方策について検討する。

### ② 卒業生との繋がり強化

金城学院アプリの新規登録者数を増やす方策について検討する。

また、みどり野会との連携を強化する方策について検討する。

## VI 予算概要

---

### 1 予算編成方針

#### ① 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員 100%、退学・休学想定率 2%とする。補助金収入は、前年度実績の 90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

#### ② 支出関連

健全財政の確保を目的として、2022 年度の継続経費は、「2021 年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、引き続き、防災対策強化・環境配慮等の政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性・有効性等を十分検討し予算化する。

## 2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2022年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
教育設備 充実事業	(大学) ・学内LAN増強 ・PC教室、スタジオ、ラジオブース設備更新 など	198,422
	(高等学校) ・コンピュータ教室PC更新 ・AV教室ノートPC更新 など	
修繕事業	(大学) ・W2棟GHP更新工事 ・大学防災監視盤更新 など	327,050
	(高等学校) ・栄光館1階冷温水発生器更新工事 ・グラウンド防球ネット補修工事	
広報事業	・新聞広告掲載、TVCM制作 ・特別入試広報費 など	118,181
その他	(大学) ・緊急特別就職支援策 など	27,849
	(幼稚園) ・設立50周年記念事業	
合 計		671,502